

4 学校健診の必要性

学校健診の目的は、疾病や異常をスクリーニングし、早期発見・治療につなげることである。

学校健診による疾病や異常の発見状況は、文部科学省の学校保健統計で毎年度公表されているが、今回の小中学校や福祉部局等に対する調査でも、学校健診で疾病等（糖尿病、肝機能障害、脊柱側弯症、肥満、虫歯、ネグレクト等の疾病・異常・虐待をいう。以下同じ。）の兆候が確認された事例を多数把握しており、学校健診の重要性が改めて確認できた（表4-①）。

表4-① 学校健診により疾病等の兆候が確認された主な事例

疾病等	内容
I型糖尿病	尿検査の1次検査と2次検査の両方でひっきり、学校が医療機関の受診を勧奨したところ、その後保護者からI型糖尿病であった旨報告があった。
肝機能障害、高尿酸血症	内科健診、身体測定の結果により、肥満傾向とされたこどもが医療機関を受診した際、肝機能障害と高尿酸血症と診断された。
慢性腎臓病	尿検査において、たん白及び潜血陽性が判明。医療機関受診の結果、慢性腎臓病と診断された。
脊柱側弯症	内科健診で脊柱側弯症の疑いを指摘され、医療機関を受診したところ、特発性脊柱側弯症と診断された。
虫歯	歯科健診において、前回受診時の虫歯が喪失歯になっていることが判明した。
成長ホルモン不全	身体測定で低身長傾向があることが判明し、医療機関で低身長症（成長ホルモン不全）と診断された。
心疾患	心電図検査で異常を指摘され、医療機関を受診したところ、心室性期外収縮、心房中隔欠損症、WPW症候群等と診断された。
心疾患	心電図検査実施学年ではなかったが、心電図検査を実施しない国からの帰国後であったため検査を実施したところ、要精密検査となり、心房中隔欠損症が判明した。今後手術等の治療予定である。
摂食障害	過度のダイエットで生理が止まるほど痩せ、学校健診で成長曲線の急落が判明した。学校からの受診勧奨により総合病院の小児科を受診した結果、摂食障害と診断され入院した。
ネグレクト	精神疾患を持つ母と同居するこどもについて、学校健診で多数の虫歯が発見され、家庭での歯磨き習慣が身についていないことや、歯科受診ができていないことが判明した。学校や福祉部局等から受診勧奨をしたが未受診のままであり、ネグレクト状態となっていることが疑

	われた。要保護児童対策地域協議会で関係機関が連携して支援を継続している。
--	--------------------------------------

- (注) 1 当省の調査結果による。
2 表中の事例は、こどもが不登校か否かを問わない。

なお、本調査で接触した医療機関からも、心疾患や腎疾患など、初期段階で無症状である疾病の場合は家庭内で疾病に気付くことができないため、学校健診を通じた早期発見が重要であるとの見解が聴かれている。

上記のとおり、学校健診は疾病等の早期発見のために重要な機会であることから、学校健診の機会を逸することにより、疾病等の兆候を見逃すこともあると考えられる。今回の学校や福祉部局等に対する調査では、不登校で学校健診を受けていないこどもが疾病等を抱えている事例も多数把握された（表4-②）。こうした不登校のこどもの疾病等についても、学校健診を受けていれば、早期に疾病等の兆候を捉え、適切な治療につなげられていた可能性がある。

表4-② 不登校で学校健診を受けていないことにより、疾病等の発見が遅れたと考えられる主な事例（小中学校及び福祉部局等に対する調査）

分類	事例
転校、進学等をきっかけとして学校健診を受診したことで、疾病等の発見につながった例	○ 不登校が続いており、学校医の医療機関で健診を受診するよう勧めたところ、久しぶりに歯科健診を受けることができ、虫歯が急増し進行していることが判明 ○ 不登校期間が長く、学びの多様な学校転入後に学校健診で視力低下が判明。眼鏡により矯正
福祉部局等が支援を行う中で、疾病等の発見につながった例	○ 福祉部局等との面談実施時に顕著な側わん症が判明。医療機関において大学病院での手術を要すると診断されるも、両親の意向により治療が難しく、児童相談所で医療ネグレクトと判断し、一時保護 ○ 本人の発達特性が強く、家庭でのケアも十分ではなく不登校が継続。学校や児童委員の家庭訪問によりネグレクトと判断され、児童相談所が介入し、一時保護後の健診で虫歯が判明 ○ こどもの受診治療に消極的な母子家庭であり、母親の養育能力の低さ等に伴うネグレクトやこどもの偏食により十分な食事がとれず、成長障害が生じている。また、多数の虫歯があり、健康な歯が3本しかない口腔崩壊の状態

(注) 当省の調査結果による。

さらに、アンケート調査結果でも、不登校で学校健診を受けていないことにより、疾病等の発見が遅れたと考えられる事例が多数把握されている（表4-③）。

表4-③ 不登校で学校健診を受けていないことにより、疾病等の発見が遅れたと考えられる主な事例（アンケート調査）

回答時点の 本人の学年	不登校期間中の 学校健診の回数 と、そのうちの 未受診回数	事例
中学3年生	2回中2回	歯医者で定期健診するという意識がなかった。思い立った際に、歯医者に連れて行ったら虫歯があった。
中学3年生	3回中2回	乳歯が残ったままで永久歯がゆがんでいたが、歯科健診を受けていなかったため気付かなかった。歯医者を受診した時点では歯科矯正や手術が必要になるかもしれない状態になってしまっていた。
中学2年生	7回中4回	風邪で病院にかかった際、肥満傾向を指摘されたことをきっかけに、実費で詳しい健康診断と栄養管理指導を受けた。
小学5年生	4回中4回	学校で周囲と比較する機会がなく、痩せすぎであることに気付かなかった。
小学5年生	4回中4回	視力が落ちていることに気付かなかった。本人の申告により眼科を受診した際には結構悪くなっていた。
中学3年生	2回中1回	中学2年生時の内科健診を受けなかった。中学3年生で学校側の時間の配慮を得て学校健診を受診したところ、脊柱側弯症と判明し治療中。中学2年生時の学校健診を受けていたら早期発見できた可能性がある。
中学3年生	4回中4回	学校に行けず、座りっぱなしの生活が続いたことにより、足の骨が曲がってしまった。学校健診を受けさせたかったが登校できず、また、病院での健康診断も嫌だったため受診できなかった。
中学3年生	8回中7回	家庭内で脊柱側弯症や虫歯を発見したが、発見が遅かったように感じている。
中学1年生	3回中3回	まぶたと足の浮腫がひどく、小児科で尿検査したところ、精密検査のため大病院を紹介された。その結果、IGA腎症、膜性増殖性糸球体腎炎及びネフローゼ症

		候群と診断された。学校の尿検査を受けていれば早期発見できていたかもしれない。
小学4年生	2回中2回	小学3年生の秋に声変わりが始まったため、検査を受けたところ、思春期早発症と診断を受け、その時点で既に性ホルモン分泌の後期に入っていた。10cm以上の身長の伸びがあったので、春に学校健診を受けていれば、もう少し早く精密検査に至っていただろうといわれている。

(注) 1 当省の保護者向け及び子ども（高校生）向けアンケート調査結果による。

2 「事例」欄の内容は、アンケート調査における「健康診断を受診していれば早期発見・治療ができたかもしれない健康上の支障」に関する自由記述欄の回答の一部を当省で要約したものである。

アンケート調査結果からは、学校健診を受けていない不登校の子どもが疾病等を抱えている事例が数的にも相当あることがうかがえる（表4-④）。

例えば、不登校期間中に学校健診を受診しなかった経験のあるこどものうち、虫歯・歯肉炎等を抱えているとの回答は163件あるが、そのうち半数以上が不登校期間中に一度も学校健診を受診しておらず、中には不登校期間中に8回連続して学校健診を受診しなかったケースもあった。こうしたケースでも、不登校期間中に学校健診を受ける機会があれば、より早く疾病等を把握することができた可能性がある。

表4-④ 学校健診を受けなかった経験がある不登校の子どもに係る疾病等別の学校健診の受診状況

(単位：件)

疾病等	不登校期間中に学校健診を受けなかった経験のある件数										
			うち不登校期間中に一度も学校健診を受診していない件数								
			学校健診を受診しなかった回数								
			1 回	2 回	3 回	4 回	5 回	6 回	7 回	8 回	9 回
虫歯・歯肉炎等	163	94	19	32	14	12	9	7	0	1	0
視力低下	66	35	5	10	9	5	2	3	1	0	0
肥満	47	37	12	13	7	1	1	2	1	0	0
側わん症等	34	20	1	4	3	6	1	2	1	2	0
低体重・低身長	13	4	0	0	2	1	1	0	0	0	0
糖尿病	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
その他（腎疾患、 思春期早発症等）	17	12	1	4	2	3	1	1	0	0	0

(注) 1 当省の保護者向け及び子ども（高校生）向けアンケート調査結果による。

- 2 疾病等の種類は、アンケート調査における「健康診断を受診していれば早期発見・治療ができたかもしれない健康上の支障」に関する自由記述欄の回答の中から、当省が抽出した。
- 3 一つの回答において複数の疾病等に言及している場合があるため、重複計上がある。

今回のアンケート調査の自由記述欄においては、「動かないので食欲がなく、ご飯を食べず痩せていく」、「食べたいものしか食わず、よくカップラーメンを食べている」、「スマホに依存し、昼夜逆転で一日中見ている」など、不登校のこどもについて運動不足、偏食、昼夜逆転、ゲーム・PC依存といった生活習慣の乱れを懸念する保護者の声が多数寄せられた。こういった生活習慣の乱れは、肥満、虫歯、視力低下といった生活習慣に起因する疾病等を引き起こす可能性があり、その意味で、不登校のこどもは、学校に通っているこども以上に健康上のリスクが高く、健康診断の必要性も一層高いと考えられる。